

## II 平成31年度当初予算「一人ひとりの幸せと確かな暮らしのあるふるさと岐阜県を目指して」

「◎」は新規事業

I 「清流の国ぎふ」を支える人づくり
<b>(1) 未来を支える人</b>
① 地域や企業等と連携したふるさと教育の展開 ◎ 各学校の特色に応じたふるさと教育の展開 ・ふるさと体験学習を高校生へ拡大
② 地域の声を反映した産業教育の展開 (産業教育の推進) ◎ I A M A Sにおける高校生等対象の「岐阜クリエイション工房」の開始 ◎ 職業能力開発施設の活性化の推進 ・岐阜かかみがはら航空宇宙博物館を活用した教育プログラムの充実
(農林業分野) ◎ 農林系アカデミー・農業高等学校の連携強化 ◎ 国際園芸アカデミーの運営機能の強化 ◎ 森林教育を実践する「森林総合教育センター(仮称)」の整備 ・ぎふ木育の総合拠点「木のふれあい館(仮称)」の整備
③ 幼児期から高等教育まで切れ目のない教育の展開 (確かな学力の育成) ◎ 先端技術を活用した授業改善の実施 ◎ 全ての県立学校にICT環境を整備
(特別支援教育の充実) ◎ 医療的ケア児の校外学習参加時の保護者負担の軽減 ◎ 発達障がい支援担当教員の育成
(教育環境の整備) ◎ 全ての県立学校にエアコンを整備
(教職員の働き方改革) ◎ 高等学校部活動指導員の配置 ・教員業務を補助するスタッフの増員
④ グローバル社会に対応した教育の展開 (英語力の強化) ◎ 英語力強化に向けた授業改善の実施
⑤ 学校教育と社会教育との連携 ◎ 「ぎふ地域学校協働活動センター」の開設 ◎ I A M A Sにおける人づくりプログラムの充実
<b>(2) 誰もが活躍できる社会</b>
① 性差に関わらず活躍できる社会の確立 ◎ 性的指向・性自認の理解促進に向けたセミナーの開催 ・男女共同参画社会の実現に向けた新たな講座等の開催 ・ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業の拡大促進
② 障がいのある人もない人も共に活躍できる社会の確立 (社会参加の促進) ◎ パーキング・パーミット制度((仮)ぎふ清流おもいやり駐車場制度)の導入 ◎ 視覚障がい者のICT機器活用の支援 ・障がい者用体育館「福祉友愛アリーナ」の供用開始
(障がい者芸術の振興) ◎ 全国障害者芸術・文化祭のサテライト開催
(就労支援) ・障害者就業・生活支援センターの生活支援体制の強化 ・「岐阜県障がい者総合就労支援センター」の開設準備
③ 外国籍の方も活躍できる社会の確立 (受入環境整備) ◎ 「多文化共生総合相談ワンストップセンター(仮称)」の設置 ◎ 新たな在留資格の創設に伴う企業向け外国人雇用相談窓口の体制強化 ◎ 外国人材の住宅確保支援の推進 ・市町村が行う多文化共生推進の支援対象にソフト事業を追加
(活躍支援) ◎ 外国人技能検定受検者増加に対応する施設整備の実施 ・介護事業者の外国人留学生の受入れ経費支援の拡充
(外国人に対する日本語教育の充実) ◎ 日本語教育環境の整備に向けた実態調査及び実施計画の策定 ◎ 外国人児童生徒散在地域のための日本語初期指導教材の作成
④ 若者から高齢者まで年齢に関わらず活躍できる社会の確立 ◎ 経済団体と連携した働き方改革の推進 ◎ 高齢者の介護周辺業務への就労支援 ・生涯現役社会の実現に向けた高齢者の就労・雇用の支援

II 健やかで安らかな地域づくり
<b>(1) 健やかに暮らせる地域</b>
① 医療・介護・子育てを支える人材の育成・確保 (医療人材) ◎ 総合診療科の専攻医に対する研修資金貸付制度の創設 ◎ 看護実習受入病院等の支援制度創設 ・在宅医療を支える特定行為を行う看護師養成の拡大
(保育人材) ◎ 保育士の確保に向けたポータルサイトの構築 ◎ 保育分野への進学・就職総合フェアの開催
② 子どもを産み育てやすい地域づくり ・子育て世代包括支援センターを設置・運営する市町村への支援の拡充 ◎ 妊産婦メンタルヘルスの支援体制の強化
③ 医療・介護サービスの充実 (在宅医療・介護の推進) ◎ 地域包括ケアの機能を充実させるコーディネーターの育成 ◎ 在宅療養支援病院と診療所の連携強化の支援
(医療・介護の充実) ◎ オンライン診療に係る調査研究・人材育成の支援 ◎ がん患者のアピアランスケアに対する助成制度創設 ◎ 小児がん患者ワクチン再接種費用の助成制度創設 ・ICT・介護ロボットの活用・導入の推進 ・認知症疾患医療センターにおける相談支援体制の強化
④ 全世代の生きがい・健康づくり (データヘルス・健康づくり) ・医療・介護等のヘルスデータの活用と人材の育成 ・健康経営に取り組む企業や健康ポイント制度の普及促進 ◎ 高齢者のフレイル予防対策に向けた食育講座の開催 ◎ たばこ対策による健康づくりの推進
(スポーツを通じた生きがい・健康づくり) ・「ねりんピック岐阜2020」の開催準備
<b>(2) 安らかに暮らせる地域</b>
① 貧困からの脱却支援 ◎ 子ども食堂や学習支援に取り組む市町村等への支援 ・高校生のいる低所得世帯への支援の拡充
② 虐待・家庭内暴力の防止と被害者の支援 ◎ 児童虐待に係る医療機関の通報体制の強化 ◎ 「高齢者権利擁護センター(仮称)」の設置
③ 犯罪・交通事故防止の推進 ◎ 防犯スマートフォンアプリの開発 ◎ 子どもの安全確保対策に向けた防犯カメラのモデル設置 ◎ 成年年齢引き下げを見据えた中高生向け消費者教育の強化
④ 災害と危機事案に強い岐阜県づくり (災害への備え) ◎ 個人ごとの避難のタイミングや避難経路を記す災害・避難カードの普及 ◎ 停電対策に向けた倒木の恐れのある立木伐採の支援 ◎ 伊勢湾台風60年を節目とする県民向け防災・減災フォーラムの開催 ◎ 被災者生活・住宅再建支援制度の拡充 ◎ 大規模災害団員の確保に取り組む市町村への支援 ・家屋浸水被害が想定される河川への危機管理型水位計整備 ・県庁舎再整備 本体工事の着手
(家畜伝染病対策) ◎ 豚コレラ対策の推進
<b>(3) 誰もが暮らしやすい地域</b>
① 二地域居住、移住・定住の促進など新たな暮らし方の推進 ◎ 東京圏からのUIJターンによる就業・起業への支援 ◎ 継業を契機とした移住定住の促進
② 地域公共交通体系など生活サービスの再編・効率化 ・地域支え合い活動を行う団体等への支援の拡充 ・中山間地域等で生活サービスの維持・再編を図る市町村の取組みの支援
③ 生活を支えるインフラの整備 ・防災・減災、国土強靱化対策に向けたインフラ等の整備 ◎ IoTを活用した現場確認業務の迅速化・効率化 ・県有施設のユニバーサルデザイン化の推進

III 地域にあふれる魅力と活力づくり
<b>(1) 地域の魅力の創造・伝承・発信</b>
① 「清流の国ぎふ」文化・芸術の創造・伝承 ◎ 「エンジン01文化戦略会議オープンカレッジ」の開催準備 ◎ 県美術館のリニューアルオープン記念行事の開催 ・「2020地歌舞伎勢揃い公演」等の展開
② 美しく豊かな環境の保全・継承 ◎ 清流長良川あゆパークを活用した長良川システム体験プログラムの充実 ◎ リユース容器やプラスチック代替製品の利用促進 ・中部山岳国立公園の魅力増進
③ 「スポーツ立県・ぎふ」の推進 ・日本スポーツマスターズ2019ぎふ清流大会の開催 ・東京2020オリンピック聖火リレーの実施準備 ◎ 冬季国体スピードスケート競技大会の開催準備 ・地域スポーツの活性化に向けた指導者の養成と推進体制の整備
④ 「ぎふブランド」づくり ◎ 地場産物の販路拡大に向けた新たな商流の創出 ◎ 美濃和紙の後継者確保に向けたセミナーや体験ツアーの開催 ◎ 農産物の新たな輸出への助成制度創設 ・飛騨牛和牛日本一奪還に向けた戦略の強化 ・岐阜の「観光・食・モノ」の情報発信の強化 ・東京オリ・パラ大会に向けた県産農畜水産物の販路拡大
<b>(2) 次世代を見据えた産業の振興</b>
① 産業を支える人材の育成・確保 ・大学と連携した航空宇宙産業分野の人材育成 ・「建設ICT人材育成センター」の取組みの強化
② AIやIoTを活用した第4次産業革命と成長分野への展開 (AI・IoT活用) ◎ スマート農業の導入の推進 ◎ 建築業界におけるIoTを活用した生産性向上の推進 ・モノづくり産業・サービス産業のAI導入モデルの創出
(成長分野・企業誘致) ◎ ヘルスケア産業の海外展示会への出展の支援 ◎ 大都市圏に向けた本社機能移転先としての優位性のPR ・「岐阜県食品科学研究所」の開設
③ 地場産業の活力の強化 ◎ 小規模事業者の持続的発展のための販路開拓等の支援 ◎ 異分野を融合した革新的な新素材や生産技術の開発の推進
④ 観光産業の基幹産業化 (2020年観光ビッグイヤーに向けた内外交流拡大) ◎ 大河ドラマ「麒麟がくる」を活用した地域の活性化 ・新たな古戦場のシンボルとなる「岐阜関ヶ原古戦場記念館」等の整備推進 ◎ デジタルマーケティングを活用した個人旅行の誘客促進 ◎ スポーツや食などの新たなテーマによる海外誘客の強化
(競争力の高い観光地づくり) ◎ 岐阜県観光連盟の地域連携DMO候補法人登録に伴う機能強化への支援 ◎ O N S E N・ガストロノミーウォーキング開催に対する助成制度創設 ・岐阜県都市公園活性化基本戦略の推進
⑤ 産業を支える広域ネットワーク・インフラの整備 ・東海環状自動車道西回り区間及びICTアクセス道路の整備 ◎ リニア岐阜県駅との二次交通に関する調査の実施
<b>(3) 農林畜水産業の活性化</b>
① 農林畜水産業を支える人材の育成・確保 ◎ 飛騨牛繁殖マイスターの育成 ◎ 森林技術者の定着に向けた林業事業体の経営強化 ・「ぎふアグリチャレンジ支援センター」の機能強化 ・「森のジョブステーションぎふ」の機能強化
② 「未来につながる農業づくり」の推進 ◎ 種豚「ポーノブラウン」再造成の推進 ◎ ICT等を活用した新たな栽培支援技術の開発 ◎ 高校生「花いけバトル」全国大会の開催
③ 「100年先の森林づくり」の推進 ◎ 将来の森林資源確保に向けた主伐・再造林助成制度の創設 ◎ J A S規格・G A P認定製品生産に対する助成制度の創設 ◎ 「ぎふの木」を用いた低価格規格住宅の開発・普及活動への支援